

## 飲酒運転・事故の心理学（3）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 信彌 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/535">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/535</a>

# 事故の心理学

<3>

吉田信彌

今年飲酒運転の取り締まりが格段に強化された年でした。その結果、捕まった人が増えたのは当然ですが、その中に警察官まで含まれていたのは、われわれにとって驚きでした。

10月の時点で飲酒運転で捕まった警察関係者の数が昨年を上回ったとの記事(「日経新聞」10月6日付)がありました。それを読んでショックだったのは、昨年の25人という数値でした。25人は多いと思います。今年は

何人になるのでしょうか。プロ意識に欠けるような組織の不祥事がある年でしたが、警察もその例外ではなかったわけです。

飲酒運転がいけないこと、そして危険なこととは誰もわかってはいます。いちはんわかってはいるはずの「警察官がなぜ」というのが一般の疑問であり、不信任をいだく点です。しかし、実験という手段で飲酒運転を免許試験場内で観察した私からすると、警察官が飲酒運

## 飲酒運転



転をしてみましょう事情の一端が理解できるような気がします。

初めて飲酒運転をする警察官を考えましょう。おどおどと運転しだした彼(または彼女)はやが

て思うはず。 「あれ、いけるじゃないか。運転して頭がくら

転は危険と聞いていたが、なんだ、車は動かせるし、ちゃんと進むじゃないか。事故なんか起こさずなんとかいける。い

同じような変な自信をもっているのではないですよ。か。ところが、その「大丈夫」と思う判断こそが飲

行動の結果についての情報が入りにくい状態になると私たちは推測して

5月の福岡や、2005年は同乗者がいました。その同乗者は後部座席で眠

運転者は同乗者に罪が及ばぬように逃がす算段まで考えることでしょうか。そこまでさせる同乗者とは友人なのか、それとも

## 「大丈夫」と思う判断に落とし穴

いでしょか。

飲酒運転は危ない、いけない、と言いつつ聞かされているだけに、実際に運転したときに「大丈夫」という意外な安心感を飲

実験の結論の一つです。自分で大丈夫と思っても実際は日ごろの運転とは違うし、エラーも出

通常は自分の行動の結果を顧みながら行動を調整するの、飲酒すると

同乗者も重く罰すべきと法律改正はされるようですが、そうなる飲酒

自分の行動の情報が戻ってこない。睡眠が襲う。交友も面倒になりそう。飲酒運転はリスクが大きすぎます。しらふでも無事故・無違反の安全運転は、そう易しくはないことを思い起こして

聞 新 文 聖

(東北学院大学教授)